

平成 7 年度

郷土資料の作成と活用に関する研究

—— 副読本「かわさき」を活用した授業研究を通して ——

郷土資料の作成と活用に関する研究

— 副読本「かわさき」を活用した授業研究を通して —

郷土資料研究会議

桑野 ヨシ江¹

芹澤 伸司²

本告 一生³

要 約

副読本「かわさき」は、昭和30年の発刊以来、数次の改訂を経てきた。それに伴い、「指導の手引き」も改訂されてきた。しかし、これまでは、どちらかという副読本及び「指導の手引き」を作成することに精力が注がれ、それらの活用についての研究には手がまわらなかったというのが実情である。県教連をはじめ各種の研究発表大会でもその点を指摘されてきた。

そこで、昨年度より研究会議を立ち上げ、副読本の有効な活用を探るため授業研究に取り組んだ。また、それと表裏の関係にある副読本の部分改訂の作業も同時に進めた。その結果、次のようなことがみえてきた。

検証授業を通して見ると、子ども達に問題意識をどうもたせるかによって活用の仕方が違ってくことや高学年の効果的な活用のためには、索引の手直しが必要なことがわかった。特に、生活経験の少ない3年生においては、実際に行ったことのある所はイメージしやすいが、写真からイメージをふくらませることは難しいことがわかった。学校5日制との関係で市内めぐりを行わない学校が増えている中、川崎の概観をつかみやすくする有効な手立てを探っていききたい。

部分改訂については、世の中の急激な変化に対応するため、毎年改訂していくことを基本としているが、予算や、データ収集等の関係で、市域を大きくとらえる写真は、5年に一度とすることなどを決定した。図表についても5年ごとに更新していくことにした。

索引について、索引本来の機能をもたせるために語句の洗い出しを行った結果、語句の不統一等が見つかった。また、索引項目を決定する際に、本文中に語句として載ってはいないが、いくつかのページをみることによって、そのイメージがつかめる言葉をイメージ語として索引に載せることにした。

副読本は、中学年に視点をあてて作成されているが、高学年でもいまままで以上に活用できるように、授業研究を重ね、その方策を考えていきたい。

キーワード：社会科、副読本、郷土資料、地域学習、市民読本、教材研究

目 次

はじめに	180	(4)わたしたちの川崎市	185
I 主題設定の理由	180	2. 活用に当たって	
II 研究の方法	180	(1)配付時の活用	186
III 研究の内容及び考察		(2)産業学習での活用	187
1. 検証授業から		(3)歴史学習での活用	188
(1)二ヶ領用水をひく	182	3. 部分改訂について	189
(2)結び合う世界と日本	183	4. 索引作成について	190
(3)わたしたちの住む川崎市	184	IV まとめと今後の課題	191

¹川崎市立新城小学校教諭（研修員）

²川崎市立西野川小学校教諭（研修員）

³川崎市総合教育センター研修指導主事

はじめに

今教育に期待されている「ふれあい教育」の推進のためには、地域学習はなくてはならないものである。地域を学ぶことにより、地域に愛着を持ち、地域の一員として、地域社会へ参加していく中に、家庭社会や学校社会にはない新たなふれあいが生まれてくるのである。

その案内役ともなる副読本「かわさき」。川崎市では市民読本としての性格も期待しながら、昭和30年より発行し続け、今年で40年を迎えた。

今の副読本「かわさき」は、平成5年度に全面改訂されている。平成6年度は写真・資料などの部分改訂に加えて、教師向けの学習指導資料を発行してきた。その間常に意識してきたことは、『教室で使ってもらえる副読本、学習指導資料の作成』であった。前述のように「かわさき」には市民読本としての性格も要求されている。そのため、3年生の初めに配った後は各家庭で目を通してもらうために、持ち帰ったままになってしまうこともある。また、ページ数の多さ、他の副読本の多さからどうしても4年生以降の学習で活用されなくなってしまうことも事実である。

これではせっかくの豊富な資料もその意味を半減してしまう。そこで、4・5年次目にあたる本研究では授業研究や実践を通して、子どもたちにこの副読本「かわさき」がどのように活用されるのだろうか、また、社会科の学習内容とどのように関連するのだろうかということを検証していくことにした。

もちろん、副読本の中身を教えていくのではない。副読本でどう学ぶか、どう考えるかが学習の目的であると考えている。特に、3・4年生用に編集されている「かわさき」を5・6年生でそのまま活用することは難しいが、単元の一部に活用することは可能である。子どもたちにとって、いきなり日本や世界の学習へ入ることは抵抗が大きいことがある。また、自分たちの生活を見直す場面で、川崎市ではどのようにになっているんだろうと考えることもある。そのような時に、資料の一部としてこの副読本「かわさき」の存在意義はさらに広がる。

副読本「かわさき」の活用を通して、子どもたちが、「地域を学び」、「地域で学ぶ」ことにより、「地域に生きる力」や「地域から出る力」を主体的に身につけていけるような学習のあり方をまとめられるように研究を進めてきた。

I 主題設定の理由

副読本「かわさき」は、昭和30年の発行以来、地域社会の変貌や社会情勢の変化に対応して改訂を重ね、平成5年度の大改訂で6回めとなる。また、副読本「かわさ

き」を効果的に活用してもらうために、指導資料も以下のように改訂を重ねてきている。

＝副読本・指導資料改訂の経過＝

<副読本の改訂>	<指導資料改訂>	<指導要領>
S30 「かわさき1・2」発行		S33 告示
S36 「かわさき1」大改訂		
S37 「かわさき2」大改訂		
S41 「かわさき」大改訂		S43 告示
	S47 指導手引（前身）	
S52 中間改訂（1/3程度）	S52 指導手引（3年用・4年用）	S52 告示
S55 大改訂	S55 指導手引（3・4年共用）	
S59 大改訂（総カラー化）		
	S60 指導資料発行	
S63 中間改訂（1/3程度）	S60 指導資料補充版発行	
		H元 告示
H5 大改訂（横書き）	(H6 学習指導資料発行)	

40年の積み上げの中でより広く、多面的に川崎市を見続けてきた副読本「かわさき」をより効果的に学習の中で活用していくために考えなければならないことを以下に挙げる。

1. 「副読本を学習」するのではなく「副読本で学習」という意識を持ち、あくまでも子どもたちが問題を解決する中での一資料としてどう位置づけられるかを明らかにする必要がある。
2. 中学年だけでなく、高学年においても市民意識の育成は必要である。社会科の内容を損ねることなく、地域資料を活用できるようにしていくための方法を明らかにする必要がある。

以上のようなことを目標に学習を展開し、副読本「かわさき」が子どもたちの学習にどう活用されていくかを検証することと、統計資料やより鮮明な写真をさしかえる部分改訂、及び、学習に役立つ索引の作成を意図して研究主題を設定した。

II 研究の方法

1. 研究のねらい

- (1) 授業研究を通して、副読本「かわさき」の活用の仕方を検証する。
- (2) 授業の中から子どもたちが必要とする資料をとらえ次期大改訂の参考とする。
- (3) 副読本「かわさき」の内容を見直すことにより、統計数値の更新や写真資料の一部さしかえを行い、より新しく、わかりやすい副読本を提供する。
- (4) データーベース機能をより充実するための索引の作成をする。

2. 研究の計画

(1)年間計画

<実践研究>

<部分改訂>

平成6年度

- | | | |
|-----|---|-------------|
| 4月 | ・方針決定 | ・方針決定 |
| 5月 | | ・改訂箇所洗い出し |
| 6月 | ・活用のメリット検討 | |
| 7月 | ・事例単元洗い出し | ・市制70周年記念取材 |
| 8月 | | ・改訂箇所取材 |
| 9月 | ・第1回授業指導案検討 | |
| 10月 | | ・さしかえ写真検討 |
| 11月 | ・4年検証授業
「二ヶ領用水をひく」
(大谷戸小 佐藤芳久教諭) | |
| 12月 | ・第2回授業指導案検討 | ・取材、検討 |
| 1月 | ・第2回授業指導案検討 | ・取材、検討 |
| 2月 | ・6年検証授業
「結び合う世界と日本」
(東高津小 栗林昌人教諭) | ・脱稿 |
| 3月 | ・まとめ | |

平成7年度

- | | | |
|-----|--|------------|
| 4月 | ・方針確認 | ・方針確認 |
| 5月 | | ・改訂箇所洗い出し |
| 6月 | ・第1回授業指導案検討 | ・取材 |
| 7月 | ・3年検証授業
「わたしたちの住む川崎市」
(柿生小 本間 俊教諭) | |
| 8月 | | ・改訂箇所取材 |
| 9月 | | |
| 10月 | | ・さしかえ |
| 11月 | | ・索引作成 |
| 12月 | | ・索引作成 |
| 1月 | ・第2回授業指導案検討 | ・索引検討・写真検討 |
| 2月 | ・3年検証授業
「わたしたちの川崎市」
(菅生小 土川 泰教諭) | |
| 3月 | ・まとめ | |

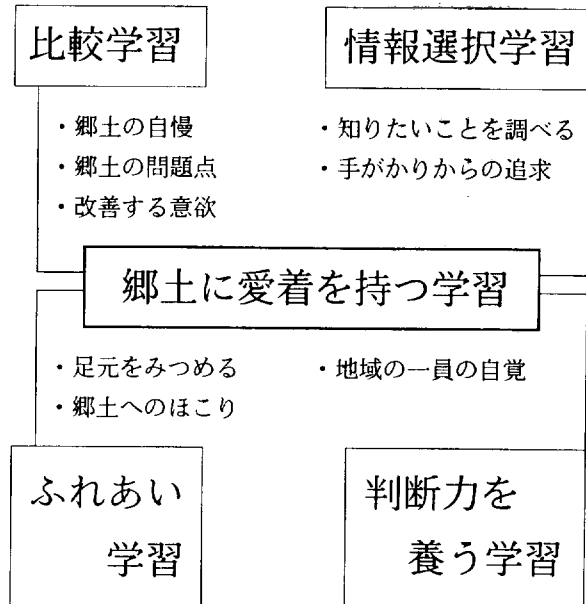
年間2回、計4回の授業研究を中心に据え、副読本「かわさき」の活用法を検討していくことにした。授業の中で気をつけることとして、

- ①副読本のための授業にならないようにすること。
- ②資料の一部として、子どもたち自らが開くような授業展開にすること。
- ③社会科本来のねらいを大切にすること。

というようなことを話し合ってから授業に臨んだ。

(2)副読本「かわさき」活用のメリット

なお、副読本「かわさき」を活用するにあたっては以下のようなメリットがあることも確認して、授業に臨んだ。逆に言えばこのようなメリットを生かして授業をすることによって、子どもたちの学習をより効果的なものにしようと考えた。



①好きです川崎愛の街

地域社会の一員としての自覚を育てるためには、まず、自分たちの住む町に愛着を持つことが大切である。

②比較の中にひそむ問題意識

比較することによって今まではみえなかったものが見えてくる。そこに、新たな疑問が生じ、追求する原動力になるのである。

③「情報誌」としての副読本

教科書の代わりから「情報誌」への活用への転換が必要であろう。

④人の生き方とのふれあいを大切に

「かわさき」を利用した郷土学習では、身近な人との出会いがしやすくなる。

⑤自分の考えの基盤を作る

川崎の様子を繰り返し、学習の中で取り扱うことによって、「川崎ではこうだ。」というような考えが生まれてくる。この考えが自分の考えの基盤となるのである。

Ⅲ 研究の内容及び考察

1. 検証授業から

(1) 第4学年「二ヶ領用水をひく」

川崎市立大谷戸小学校 佐藤芳久教諭

平成6年11月29日

○授業の観点

- ・子どもたちの問題意識を刺激するのはどんな資料か。
- ・子どもにとって必要な資料は何か。
- ・子どもたちの考えを裏付けるのはどのような資料か。
- ・全編を通して子どもたちが活用するための問題意識はどうあるべきか。

○主な流れと児童の反応

二ヶ領用水の見学後わかったことを発表する

- ・用水からたんぼに続いていた。
- ・石のようなものがあるって流れが速くなる。
- ・水の中が段になっている。水門がある。
- ・藻や水草がたくさんあった。
- ・たけ橋のまわりに生き物の絵がある。
- ・用水が汚れていた。工場があった。

二ヶ領用水の様子で、わからなかったことや疑問を話し合う。

- ・次大夫はどうして用水をつくったか。
- ・多摩川と用水がつながっている。
- ・なぜ二ヶ領用水というのか。
- ・二ヶ領用水のはたらき。
- ・たんぼのほかに何に使われたか。
- ・分量ひって何。二ヶ領用水を直した人は。

Aさん

- ・巻末の地図、年表 ・P148,149
- ・ちょうちん測量・P142を読む
- 次大夫はどうして用水をつくったの

わからないことを、どのように調べたらよいか話し合う。

- ・昔の人たちに聞く。 ・資料室に行く。
- ・農家のおじさんに聞く。
- ・「お水だいすき」「わたしたちの神奈川県」「かわさき」で調べる。

「かわさきの道と川」で調べる。

疑問やわからなかったことを調べよう。

- ・用水はいつ、だれがつくったのか。
- ・分量ひって何だろう。

Bさん

- ・円筒分水の写真・用水の流路図
- ・現在の用水の写真
- 用水はたんぼのほかにどんなことに使われたのか。

○考察

- ・子どもたちは疑問や調べたいことに基づいて資料を探す学習をしていた。なかでも巻末の地図、年表を見る割合が多かった。年表から時代、工事期間や次大夫の年齢を調べていた。
- ・流路図は用水の全体の姿を知る上で見る回数が多かった。そのほかには次大夫と家来の絵、工事の様子、ちょうちん測量の資料に目をむけていた。数は少ないが分量ひ、せきの絵をじっくり見る子がいた。
- ・用水の見学後の子どもたちは見てきたものにこだわっていた。本時では次大夫の絵がきっかけになって、用水の歴史的な事柄に関心が広がった。
- ・子どもたちが見学する前に課題をもたせ、見学後に解決するための資料が必要になる。現在の用水の姿から歴史的なものへと学習する時、人物中心の資料にするのか、事柄中心の資料にするのかも考える必要がある。
- ・単元構成として、過去から現在にのぼる方法にするか、現在残っている物をてがかりに昔にさかのぼる構成にするのかも考えることが必要である。
- ・単元の入り方も田の様子から導入したり、人物中心に導入したりする方法がある。
- ・子どもたちは調べ活動の中で「かわさき」のほかにも、「かわさきの道と川」や「わたしたちの神奈川県」「お水だいすき」などにも目をむけていた。補充資料として「歴史ガイド」パンフレットを利用した。子どもたちの疑問や調べたいことに対応できる情報源としての資料が必要である。

(2) 第6学年「結び合う世界と日本」

川崎市立東高津小学校 栗林 昌人

平成7年2月9日

○授業の視点

- ・オーストラリアやウーロンゴン市について興味を持っているか。
- ・ウーロンゴン市の人々の生活について知りたいことを見つけているか。
- ・川崎市の紹介をできるように調べているか。

○主な流れと児童の反応

オーストラリアを中心としたさかさ地図と副読本「かわさき」を見て、川崎市とオーストラリアの関係について発表する。

- ・オーストラリアの形に似ているよ。
- ・でも、逆さになっているみたいだよ。
- ・カンガルーがいる。
- ・日本と経度がいっしょ。
- ・オーストラリアのウーロンゴンという所と友好姉妹都市になっている。

オーストラリアの生活を紹介した映像を見て、感想を発表する。

- ・クリスマスの時期が日本とは逆なので驚いた。
- ・飛行機を使って生活をしている。
- ・一人で住んでいる人は困る。
- ・家が大きい。

副読本「かわさき」を使って、川崎市の様子を確かめながら、ウーロンゴンからの留学生に尋ねてみたいことを書き出す。

Aさん

- P 6～7 川崎市には埋立地や工場がたくさんあるけれど、オーストラリアにもあるのか。
- P 10～11 オーストラリアに自然破壊はあるのか。
- P 12～13 川崎にはたくさん電車が通っているけれど、オーストラリアにも電車はあるのか

Bさん

- 表紙から オーストラリアには、どれくらいの建物があるか。
- P 6～7 川崎市には工場が多いけれど、オーストラリアではどうか。

Cさん

- P 12～13 川崎市の端から端まで約32.4kmあるけれど、オーストラリアは、どれくらいの長さがあるのか。
- P 14～15 川崎市の人口は約120万人だけれど、オーストラリアの人口はどれくらいか。

川崎市との比較から、ウーロンゴンからの留学生に尋ねてみたいことを発表する。

- ・オーストラリアには、埋立地があるか。
- ・オーストラリアのどこで、鉄鉱石や原油が取れるのか。
- ・交通の便は、よいのか。どんな乗り物をよく利用するのか。
- ・日本とはさかさの地図を使っているのか。
- ・国の中心には、何があるのか。
- ・老人ホームがあるのか。
- ・川崎では、電車を利用して通勤する人が多いが、オーストラリアでは、ラッシュがあるのか。
- ・川崎では資源を大切にしている工夫をしているが、リサイクルをしているか。
- ・どんなスポーツがさかんか。
- ・オーストラリアの物価はどうか。
- ・日本には、お正月などの行事があるが、どんな行事があるか。
- ・川崎の川はきたないけれど、そちらはどうか。
- ・オーストラリアでは、無線でしか勉強できないのか。日本のような学校はないのか。

○考察

- ・副読本の写真に着目して、特徴的な部分をとらえる子どもが多く見られた。中には、文章を読み込んで比較の視点を見いだす子どももいた。
- ・問題意識が深まらなかったために、とりあえず気付いたことから疑問を作っている子どももいた。
- ・指導者側の意図としては、子どもたちの生活の場である川崎市を基準にウーロンゴン市という都市の生活に目を向けることを期待したが、子どもたちの意識の中では、オーストラリアとウーロンゴンという区別がはっきりしていなかった。
- ・国際交流の視点に立つと、川崎のことを紹介していくという姿勢は大切である。そのためにも、副読本「かわさき」の活用は有効である。
- ・読み物的な活用と辞書的な活用が考えられる。そのためにも、索引を充実させ、子どもが調べる項目を探しやすいようにしていく必要がある。

(3) 第3学年「わたしたちの住む川崎市」

ー見つけなおそう川崎市の中の柿生ー

川崎市立柿生小学校 本間 俊

平成7年7月7日

○授業の視点

- ・自分が住んでいる町と違ったものとして、「かわさき」にあるものの中から何を選択するか。
- ・川崎市の中の柿生という意識はどのようにしたら育つか。
- ・子どもは、どの写真に目を向けているか。

() 主な流れと児童の反応

柿生はどんな町だったかを確認する。

- ・柿生は自然がある便利な町だと話し合った。
- ・新宿も公園に自然は残っている。
- ・平和な町というのも出たけど、それは違う。
- ・お母さんは、柿生を平和だと思っている。
- ・踏切事故が新聞にもものっていた。
- ・学校の校歌に平和という言葉がある。
- ・校歌は学校ができた時に作られたのでは？だから昔は平和でも今は違うのかも。
- ・新宿には児童改札口、大きなデパート、ビル、デパートがあるけど、柿生にはない。
- ・柿生には急行が止まらない。

川崎には、柿生と様子がちがうところがあるのだろうか。

副読本「かわさき」の中から柿生と違う写真を見つける

----- A さ ん -----

- ・友だちと相談しながら作業をする。
- ・写真資料一覧を見てから探す。
- ・目次に気づく。
- ・P. 77マイコンシティー
- ・P. 82インターチェンジ
- ・P. 22シビルポートアイランド
- ・最終的には、そういうところがないという理由で、P. 90の「くだもの博物館フルーツパーク」を選ぶ。
- ・周囲の3人の児童に影響を与える立場にいた。

----- B さ ん -----

- ・友だちの様子を見ながら作業をする。
- ・P. 77マイコンシティー
- ・Aさんの影響を受けて、海に目を向ける。
- ・P. 22シビルポートアイランド
- ・P. 20シーバース
- ・P. 20原油タンク
- ・柿生には海がないという考えに

----- C く ん -----

- ・前の方のページにある大きな写真を中心に見て作業をする。
- ・P. 4~5市の中心地を見て、「高いビルがあるよ。」
- ・柿生にないものという見方で選ぼうとした。
- ・P. 6~7海岸にそった埋立地
- ・P. 10を見て、頭をかかえて考えた。
- ・かわさきの目次を見る。
- ・川崎市歌を見る。

柿生と様子が違うところを発表する。

- ・柿生には海がないから選んだ。
- ・ビルや工場などもない。
- ・フルーツがいっぱいのところは柿生にない。
- ・それは文化センターや環境センターと同じ。

○考察

- ・キーマンがいて、相談していく中で、目次で写真を探すようになった。
- ・情報量が多く、厳しい面があった。情報をどう使えるかが問題になる。
- ・写真を全体的に見ようとする子と個別に見ようとする子がいた。
- ・インパクトのあるものが違いに見えてしまう面が見られた。友達の意見に流された様子があった。何を視点として選択していくかが問題である。
- ・文章の中身から選択をしていて、特にカタカナに目を向けている子どもが多かった。
- ・限られた時間の中では、ねらいに合わせて提示の仕方を考え、資料を整理していくことが必要である。
- ・違いの意味をどうとらえていか。ひとつは、自然や地形といった人間がつくったものではないものの違いで、その場合は人間がつくったものを取り除くことで見えてくる。もうひとつは、土地利用といった人間がつくったものの違いがある。
- ・情報量の多い、少ないは、子どもによって違う。

(4) 第3学年「わたしたちの川崎」

～見よう えがこう わたしのふるさと～

川崎市立菅生小学校 土川 泰教諭

平成8年2月6日

○授業の視点

- ・川崎市の様々な地域の良さなどを見つけられたか。
- ・自分の考えたキャッチフレーズを具体的にイメージし、自分のまちに合うもの合わないものを見つけ出すことができたか。
- ・川崎市の様々な地域の様子に関心を持つことができたか。

○主な流れと児童の反応

本時の目標

「菅生2010プラン」のテーマの話し合いをもとに、「かわさき」からまちづくりの参考になりそうな場所を探すことを通して、川崎市内の様子に関心を持とうとする。

「かわさき」から他のまちの自慢やまちづくりの様子を探し、テーマに合うかどうか考える。

A さん

「ワクワクドキドキするまち」

- ・すぐに副読本を開き、そばの友達に声をかけグループをつくり調べ始める。
- ・生田緑地、大都市近くの農業などのページに付箋を貼り、「畑がずっと続けばいいな」。
- ・「民俗芸能」を見て、友達に伝える。自分のテーマを意識し始める。
- ・地域の人たちも緑を増やす努力をしているから、自分たちもそういうものを探そう。

- C 川崎駅前のライトアップやけやき通りは自慢だと思います。自分のまちにもあるといいと思います。
- C ぼくもそこを歩いてみたいと思います。平瀬川のまわりになるといいと思います。

B さん

「夢をかなえる夢を持つ人のまち」

- ・菅生のまちに合うものを探す。
- ・10, 36, 88ページに付箋。友達に促されて、50ページに付箋。
- ・87「自然池」 103「工場自慢」103「資源を大切にしておく店」105「お店の工夫」。目的に向かって黙々と調べる。
- ・水の広場を平瀬川につくると地域の人の計画にあう。(ノートに書く)

- C 資源を大切にしておく店をつくっていききたいです。そんなお店を計画に入れてください。
- C 市民ミュージアムは地域の人の計画や夢に近いと思います。音楽が流れるというのもよい。
- C 蔵敷の商店街をもっと立派にして、そこにつくるか、音楽だけでも流せばいいと思います。

C さん

「昔の残るまち」

- ・目次を使って自分のテーマに合いそうなところを探す。「昔の生活」を見つける。
- ・写真だけでなく、文章も読んでいる。
- ・113, 124, 126ページ。これいいよ。昔が残ってるよ。もっと、自分のキャッチフレーズに合うようなものを探そうよと友達を促し、目次に戻る。

- C おじょう様が残っているのはこのまちの自慢だと思います。菅生にも生かしたいです。
- C 古いものや昔から受け継がれているものがあるというのはまちの自慢だと思います。菅生にも獅子舞などがあります。これからも残していきたいです。

○考察

緑、水、ふるさと、人という要素に集中している。これは、年間を通して学習してきた総合単元の成果である反面、偏った「豊かなまち」のイメージをつくってしまった。利便性についての意識が薄く、そこに住み、生活するんだという意識を持たせることができなかった。大きな施設をつくるにも、緑の減少を意識している。利便性がでてこない。

まちを構成する要素が何かもっと明確にしていく中で、自分のキャッチフレーズを具体的にイメージさせていくことで夢もあり、現実的な要素を選択していきけるのではないか。

自分のまちに取り入れたいというものは意見として話し合われるが自分のまちに向かないというものが対立意見として出てこなかったのは残念である。比較という視点が弱く、手法として教えておきたい。自分のキャッチフレーズと比べたり、まちに向いているのかいないのかという点を全体の話題として全体のものにしていくことが今後大切である。

黒板の白地図をもっと活用すると自分の選んだところがどこにあるのかわかってきて、各地域の様子がつなげてくるだろう。

限られた時間の中で多くのものを選んでいく。写真が中心の資料活用だったが、明るい川崎のイメージが十分生かされた。目次を活用する児童も多く、索引も今後生かせると考える。

2. 活用にあたって

(1) 副読本の配付と活用の実際

①配付にあたって

副読本「かわさき」は、市内めぐりをしても見られない航空写真や、社会事象に対する見方や考え方を示唆する資料が数多く掲載されている。そこで、配付する時には、「川崎市のことがいろいろ知りたい。」という子どもたちの意欲に応えるとともに、川崎市の一員である子どもたちの市民としての自覚を意識させる第一歩となるようにしたい。

- ・「この本は、教室にいたままで友達と川崎市たんけんをして調べることができる本だよ。」
 - ・「表と裏の表紙を広げて、見てみよう。」
- 飛行機から見た川崎市の様子で気がつくことや行ったことのある場所などを話し合う。
- ・「中にはどんなことが書いてあるかな。」
- 行ってみたい所や、知りたいことなども自由に発表させたい。
- ・「みんなの住んでいる町のことも出ているよ。何ページあたりにあるかな。」

自分たちの住む区の航空写真と絵地図のページを探し、様子や絵地図、行ったことのある町、他の区と比べて気づいたことなどを話し合う。

- ・「家で、また見てみよう。もっと、違うことを発見したら、友達や先生に教えてね。そして、お母さんやお父さんにも見せてあげよう。」

6年生まで、また大人になっても利用できる本であること、休みの日に父母と川崎のいろいろな所に出掛ける時のガイドブックにもなることを知らせたい。

②活用の実際～川崎市立百合丘小学校での事例～

- ・単元名 「わたしたちの住む川崎市」

「かわさき」の航空写真やビデオ「川崎市の土地の様子」を見て、わかったことや調べたいことを話し合う。(1欄)

- ・川崎市の町の様子で知っていること
- ・南武線沿線の様子 ・探検して調べたい事と方法

川崎〇〇探検隊ごとに知りたい川崎市の様子を副読本や集めた資料で調べ、地図にまとめる。(2欄)

- ・地形や土地利用の様子 ・交通の様子など

川崎〇〇探検隊ごとに調べてわかった事、川崎市のようと思うところや特色などを発表する。(2欄)

- ・自分が住む町の位置 ・川崎市のまわりの都市
- ・海ぞい、多摩川ぞいの平地、丘陵地の土地利用
- ・鉄道網とターミナル駅

川崎市以外に住む祖父母や友達に川崎市の様子を紹介する手紙を書き、発表する。(1欄)

- ・川崎市の様子や特色 ・よいと思うところ、など

おじいちゃんおばあちゃんへ
ぼくたちは川崎のパン強をしました。ぼくたちは人びとのしごとや人数をしらべました。工場のイシごとが全たいの半分いじょうになっていました。ほくのすんでる麻生区は12万人ぐらいの人びとがすんでいます。麻生区はいちばん高い所だとわかりました。高い所は田や畑が多いことがわかりました。ひくい所たいらな所は工場がたくさんあることがわかりました。店がたくて買ひ物をするのにはべんりです。コンビニストアやいろんな店がたくさんになりました。人びとがすくなくてゆたりとすめる所です。でもさいわい区はどこかせまいのに買ひ物めをいけません。でも麻生はよりたかふともわかりました。たのしいべん強でした。 たかみちより

③活用のポイント

- ・調べたところの写真を見せたい時は、教師用の副読本の写真を切って地図や模造紙に貼って活用する。

自分たちの調べたことを地図やグラフ、絵や写真で表現していくという、これ以後の社会科学学習でも生かせる表現方法を獲得する。副読本の資料を利用し、子どもの発想を大切にしまとめられるように3年生の発達段階を考慮しながら支援する。

- ・家や区役所で聞いたこと、市民便利帳などその他の資料も生かして多様な調べ方をさせたい。

副読本だけでなく、実際に話を聞いたり、パンフレットを集めたりする活動などと併せて調べさせていく。また、調べる中で友達や父母、地域の人達とのふれあいや、必要な資料を収集、選択していくなどの「調べる楽しさ」も経験させるようにしたい。こうした経験は、これからの地域学習の中でも生かせるので、適切なアドバイスをするとともに多様な調べ方やその子なりの表現方法を大いに認めたい。

- ・具体的な体験的活動の他に、間接的な資料に対する観察力、活用力をみがき、問題を洞察し、解決する力を養いたい。

初めての社会科学学習への移行をスムーズにし、社会事象への見方や考え方を育てるために、地域に出て具体的に調べる学習と副読本の写真やその他の資料を活用して調べる学習とを子どもの関心や意欲に応じて関連させて取り入れるようにする。

(2) 産業学習での活用

① ねらい

- ・5学年で食料生産、工業生産について、学習してきた。特に工業の学習については、京浜工業地帯の中心でもある川崎港を取り上げることで、我が国の工業の盛んな地域への興味や関心を持てるようにする。
- ・川崎港の工業に目を向けることにより工業地域は海沿いの平地で交通の便が良く原材料や製品の輸送に便利であることに気付くようにする。
- ・川崎の玄関口でもある川崎港は、川崎市の大切な港であることを学習することで郷土へのほこりを持てるようにする。

② 活用の実践～菅小学校での事例～

- a) 小単元名「日本を代表する川崎港」
- b) 小単元目標

川崎港や我が国の工業を調べることにより、工業は自然条件や社会条件を生かしながら行われてきたことについて考えようとする。

c) 主な学習の流れ

我が国の工業の盛んな地域は、海沿いや平野に多いことに気付く。

- ↓ 教科書や資料集を使い、工業の盛んな地域を調べ、白地図に書き表す。
- ↓ 全国で工業の盛んな地域の特色を調べる。

身近な地域である川崎港について調べる。

- ↓ 副読本「かわさき」の『川崎港の人々の仕事』（P92～97）を見て川崎の工業の様子を調べる。
- ↓ 川崎港の白地図に工場の集まっているところに色をぬる。
- ↓ 市の人々の様子や工場の仕事についてわかった事をノートにまとめる。
- ↓ 副読本「かわさき 学習指導資料」の『川崎港と世界のつながり』（P.120）を使い、世界と川崎港の関わりを知る。

我が国の工業地帯や工業地域について調べる。

- ↓ 川崎港を調べたことを参考にしながら
- ↓ 工場の広がりにはどんな特色があるの

かを考える。

我が国の工業生産の特色を従業員や生産額、貿易の面からとらえる。

- ↓ 副読本「かわさき 学習指導資料」の『川崎港と世界のつながり』（P120）を参考にしながら
- ↓ 日本の貿易の特色を考える。

我が国の工業生産の様子を新聞にまとめる。
(下の児童作品参照)

③ 活用のポイント

- ・5学年の子どもたちにとって副読本「かわさき」は余り関わりのないものになりがちだが、農業生産や工業生産、通信、運輸などでは、自分の住む町という身近かなところに目を向けることで、関心、意欲をもたせて全国に広げていくことが効果的である。
- ・川崎市の人びとの仕事では、『かわさき 学習指導資料』の解説部分を子ども用資料にかえることにより学習資料として十分に活用することができる。



(3) 歴史学習での活用

①ねらい

- 子どもたちにとって比較的身近な川崎の歴史的事象を年表を使って概観することで、日本の歴史の大きな流れや地域の歴史に興味を持てるようにする。
- 川崎の歴史的事象を歴史を見つめる「窓」として扱うことで、子どもたちに日本の歴史や人々のくらしの様子をイメージ化できるようにする。
- 子どもたちにとって身近な川崎の歴史的事象を学習することで、自分たちが暮らす郷土「川崎」に愛着を持てるようにする。

②活用の実例～久末小学校での事例～

a) 小単元名「久末歴史探検～地域の歴史から学ぶ～」

b) 小単元目標

身近な地域にある歴史的な遺跡や文化財などを調べ、地域の歴史や当時の人々の様子に関心を持つと共に、日本の歴史を学ぶ意味について考えようとする。

c) 主な学習の流れ

久末とその周辺の遺跡や文化財を調べ、歴史探検（見学）コースをつくる。

- 副読本「かわさき」の「むかしのようなすをつたえるもの」(P138-141)を見てむかしを知る手がかりや方法について話し合う。
- 副読本「かわさき」の巻末年表や「たちばなの散歩道」などをもとに学区周辺の遺跡や文化財を調べ、見学コースをつくる。

久末とその周辺の歴史探検をし、調べたことを探検メモに書く。

- 見学先で発見したことや解説板の説明、資料をもとに分かったことを探検メモにまとめる。

久末歴史探検で調べたことを年表に整理する。

- 副読本「かわさき」の「むかしのようなすをつたえるもの」(P138-141)の“時間の帯”を参考に100年（1世紀）を1cmとする等尺年表上に久末歴史探検で発見したことや感じたことを記入する。

- 野尻湖人がくらししていたころを等尺年表を記入することで、歴史の時間的長さや歴史の流れがとらえやすくなる。

見学に興味を持ったことを久末歴史探検ニュースにまとめる。（下の作品例参照）

③活用のポイント

- 副読本「かわさき」では、郷土川崎の歴史的な遺跡や文化財を通史的には扱っていない。従って、歴史学習で活用する際は、本誌に掲載された川崎の歴史的事象や巻末年表を「窓」として日本の歴史のあゆみへと視野を広げたり、逆に自分たちがすむ郷土川崎に対する理解を深めたりしていけるよう学習活動を展開するのが効果的である。
- 「焼け野原になった川崎市」(P112)や「学校数のうつりかわり」(P118)などは、「かわさき学習指導資料」の解説や補充資料と併わせて扱うことで、子どもの調査活動に学習資料として活用することができる。

久末歴史探検		6年 組 番
子母口貝塚ニュース		名前 A子

えっ！丘の上に見塚？

4月18日、私たちは久末探検に行きました。いつも見ているコンビニ店のわきの道を登ると、丘の上は畑になっていました。広い畑には白くまかい貝からのわれたものがちらばっていました。友達とひろ末貝からを「かわさき」で調べたら、ハイガイだとわかりました。そして、子母口貝塚にはハマグリやかきの貝からが4～5cmもの貝塚がひろくあつて、うまそうです。私は海の貝のからをどうやって集めたのか、ふしです。もっと、久末のまわりの貝塚を調べてみたいと思います。

野尻湖人のマン像

上の年表を見ておぼろげに現代から1000年にさかのぼると、何世紀の歴史か分かってきました。

子母口 貝塚

西暦0年 2万年

15000 9000 8000 7000 6000 5000 4000 3000 2000 1000

影向寺 秋吉台 白旗山 富士見台 西土手 古墳 子母口 貝塚

3. 部分改訂について

町は生きている。1993年に大改訂が行われてから、川崎駅周辺、溝の口駅周辺と川崎も刻々と変化している。また、様々な方からもご指摘をいただき、より良い写真や資料を差し替えていくことも要求されている。そこで、以下のような視点で毎年見直しを行い、部分改訂を重ねていくことにした。

要求されたことを全て差し替えていくことはできないが、写真を取り溜め、可能なかぎり変更していくことで次回大改訂に備えておきたいと考えた。

部分改訂の視点

- ・川崎の明るいイメージが伝わる写真にする。
- ・最新のデータを載せていく
- ・再開発などで変貌著しい地域の写真を変える。

=平成6年度に改訂した箇所=

No.	P.	キャプションと問題点
1	32	川崎駅改札の様子（暗い）
2	32	こみあう駅のホーム（ボケている）
3	32	アゼリアと駅を結ぶエスカレーター（暗い）
4	34	川崎駅ビルBE（人を入れて斜めから）
5	34	ルフロントと駅前のホテル（斜めから）
6	34	アゼリア入口カプセル（賑やかな様子）
7	35	アーケードのある商店街（暗い）
8	35	映画館の多い商店街（ボケている）
9	51	花と緑の市民フェア（人を入れて）
10	57	かながわサイエンスパーク（ボケている）
11	63	（地図上に大学のマークを入れる）
12	140	影向寺（新緑のところに）
13	164	市民プラザ（ボケている）
14	172	（清掃場を処理センターへ変更）
15	173	玉禅寺処理センター（ボケている）
16	178	巻末の地図（清掃場を処理センターへ）

=平成7年度に改訂した箇所=

No.	P.	キャプションと問題点
1	4	川崎駅周辺（第3庁舎を入れて）
2	11	（イラスト内百ヶヶ丘を百合ヶ丘に）
3	17	（海底トンネルを追加）
4	37	テパバートI（新しいビルを入れて）
5	38	平間寺（へいげんじをへいけんじへ）
6	50	（とどろきアリーナを新しく入れる）

7	53	（高津区役所周辺に工事中の文字追加）
8	56	かながわサイエンスパーク（ボケている）
9	88	かおりの園（菖蒲園に変更）
10	114	政令指定都市（年号を入れる）
11	117	（人口の図5年刻みに）
12	145	せき（せきの文字を消す）
13	178	（国際交流センター、アリーナ追加）
14	巻末	（絵を全面差替え）

=明るいイメージを出すために=

- ・新緑の5月の連休のところに多く取材をした。
（4月発足のために分担なども決まらず、なかなか取材にいけずタイミングを逃すことも多かった。）
- ・人を多く入れた写真を撮る。
（取材の日が休みの日になることが多く、人手を待つことが難しかった。）
- ・鮮明な航空写真を載せる。
（社会科の主任研修員の手も借りたが、天候、季節、角度など難しい条件が多く、ヘリコプターに乗ったが撮れなかったり、せっかく撮ったが緑が少なく使えなかったりすることもあった。）

=最新の情報を掲載するために=

- ・5年刻みのデータを載せる。
（毎年変わっていく数値をその都度変えていくことは費用の面から考えても難しい。また、紙面構成上追加していくのは余裕がない場合もあり苦労した。）

=再開発などで変貌著しい地域を差し替える=

- ・再開発終了後、7区を順に変えて行く。
（予算面から航空写真をいっぺんに変えることは難しい。また、町は少しずつ変わっていくものであるため、大きなビルなどの目印になるものが変わった時に差し替えていくことにした。なお、開発計画がはっきりしている場合には「再開発中」と表記するなどの工夫をすることにした。）

その他、誤字や名称変更などが分かった場合には順次変更してきた。

しかし、現在発刊されているものでも完璧とは言えない。毎年少しずつ改訂していくことにより、より良い物へと完成させていきたい。もちろん、読んでいただいた方や子どもたちからの声は私たちが見直すための大きな励みと反省になっている。川崎の顔となる副読本「かわさき」であることを自負して、たくさんのご意見に耳を傾けながら、編集することに意義を感じている。

4. 索引作成について

(1) 作成のねらい

① 昨年からの経緯

昨年度の検証授業の中で、子どもたちは問題を解決する手段の一つとして、この副読本「かわさき」を利用して。自分の問題の解決に必要な資料を探するために、目次を見たり、バラバラと始めの方から、ページをめくったりしている子どもが多かったが、索引を利用してはいる子どもはあまり見られなかった。これは索引が項目別になっているためだと考えた。

さくいん	多摩丘陵 多摩区役所のまわりの	10
航空写真	ようす	58
あ 麻生区役所のまわりの	等々力緑地	50
ようす	な 中原区役所のまわりの	44
扇島	は 東扇島	22
か 海岸にそった埋立地	ま マイコンシティ	77
開発後の金程・向原地区	(黒川地区)	77
(1992年)	開発後の鷺沼駅のまわり	67
のようす(1992年)	や 百合ヶ丘団地	73
開発後の百合丘の	まわり(1992年)	72
まわり(1992年)	ヨネッティ玉禅寺	173
開発中の金程・向原地区	ら 連合運動会	51
(1985年ごろ)		
開発中の鷺沼駅の	昔の写真	66
まわり(1967年)	か 開通したころの南武線	132
かながわサイエンスパーク	かやぶかきの校舎	118
(KSP)	川崎市が誕生した時の	
川崎港	市役所の人たち	141
川崎大師		

これまでの索引

そこで今回はつぎの点にねらいをおいて索引を作成した。

- ・高学年の学習の中で、テーマごとに調べることができるようにする。
- ・市民読本として大人の検索にも対応できるようにする。
- ・知りたい言葉を五十音順で調べられるようにする。

② イメージ語について

今回の索引の中には、本文中の用語の他に、各学年の学習でキーワードとなる言葉を考え、それに関連するページも拾い出した。

索引のなかでは言葉の頭に※をつけ、通常用語と区別した。また、索引の文頭に次のようなイメージ語の説明をのせた。

※の言葉は本文には載っていませんが、その言葉に関連する内容がわかるページを紹介してあります。

イメージ語として取り上げた言葉

- ・完全なくらし ・いこいの場 ・海 ・運輸
- ・絵地図 ・江戸時代 ・開発 ・環境
- ・くだもの ・くらしをゆたかにする施設
- ・研究開発 ・工業 ・自然観察 ・商業
- ・世界とのつながり ・農業 ・福祉 ・むかし

(2) 作成にあたって

① 手順

- ・各章ごとに必要と思われる語句を拾い上げ一つにまとめる。
- ・索引として必要な語句かどうか検討する。
- ・その語句の中での代表的なページに絞る。

(イメージ語についても同じ)

上記の手順を何度か繰り返しながら作成をした。

② 検討事項について

各章ごとに必要と思われる語句を上げたところ、約1200の語句が集まった。その中から本文と照らし合わせて語句の精選をし、約650語に絞った。

さらに精選を加えるため助言を仰ぎながら、検討をした。その際に基準にしたことは、

- ・固有名詞であること(人面、地名、施設名など)
- ・本文中にその語句についての説明があること。
- ・索引から見たときに、これはなんだろう、調べてみよう、と思えるものであること。
- ・川崎を学習する上で重要と思われる語句。

の4点である。これを基準に約300語まで精選を行った。

例えば、本文中にその言葉についての説明がない「あい染め」などは索引からはずした。

また、1つの語句に対して言及しているページを多い場合は、中でもメインになるページを、見開き両ページに載っている場合は、それより先は自然に見るであろうと予想し、偶数ページを記載することとした。

例えば「麻生区」は『12, 55, 61, 70, 71, 84, 98, 103, 108, 114 ページ』に載っている。しかし文中に単語としてのみ出ている箇所もあり、「麻生区」の説明としては70, 71ページが詳しい。そこで見開きの偶数ページの70ページを索引に載せた。

「埋立地」という言葉は固有名詞ではないが、川崎の学習をしていく上では欠かせない語句である。こういった語句もいくつか取り上げた。

(3)今後に向けての課題

300余りの語句を索引に載せたがまだ必要十分とは言えない。使用学年によって、単元によって、また問題によって調べたい言葉が見つからない場合が出てくると思われる。これからの実践の中で、子どもがどんな言葉に着目していくのか検証していく必要がある。

また、市民読本としての使用に耐え得る索引としてもさらに検討を加えていく必要もある。今回の作成の中でも、「川崎市立日本民家園」は普通「民家園」でひいてしまわないか、そうなら「み」の項にも載せておくべき

言葉	ページ
あ	
アーケード	34, 103
あい染め	88
あおぞら学園	81
あかりの移り変わり	122
秋草文壺	139
秋元喜四郎	160
麻生環境センター	178
麻生区	12, 55, 61, 70, 71, 84
	98, 103, 108, 114
麻生区民祭	163
麻生区役所	70, 71
麻生スポーツセンター	178
麻生文化センター	173
麻生文化センター岡上分室	178
麻生老人福祉センター	178
浅野総一郎	154
足踏み脱穀機	124
アゼリア	34, 35
新しい高層住宅	42
新しい農業のあり方	75
新しいまちづくり	72, 73
あみがさ事件	160
アメリカ合衆国	170
有馬	49, 68, 69
有吉忠一	161
有吉堤	161
安全なくらし	37, 44, 45, 59, 174
	175, 179
あんどん	122

IV まとめと今後の課題

1. 授業研究を通して

昨年度は、4年生と6年生の授業の中での「かわさき」の活用の仕方を探った。4年生では、第7章「川崎の開発」が学習内容と合っているので、子どもたちはページを捲りながら興味のあるイラストにまず目を留め、文章からも手がかりを得ようと熱心に読む姿が見られた。巻末の年表を見る子も多かった。また、6年生では「結び合う世界と日本」の学習において、「オーストラリアのウーロンゴン市から来るお客さんに川崎市の様子や生活を紹介して、相手からも教えてもらおう」という課題をうけて、「かわさき」を真剣に調べる姿があった。2つの授業を通して、問題意識をどう持たせるかによって活用の仕方が決まってくること、高学年の効果的な活用のためには索引の手直しが必要なことが明らかになった。

今年度は、メンバーの担当学年から考えて、3年生の授業実践を2つ行い、3年生の子どもが「かわさき」をどう活用するかを検証した。副読本「かわさき」と4月に初めて出会った子どもたちが「かわさき」をど

か、あくまでも本文中の正式名称で対応するのかなど考えさせられた点も多かった。

また、今回この索引に取り入れたイメージ語についてもいろいろ意見があり、イメージ語自体が索引に馴染むものなのか、作成段階でも意見が分かれた。しかし、副読本「かわさき」が問題解決の資料の一つとして、少しでも使い易くなればと試みた。取り上げた言葉や、ピックアップしたページにもまだ検討すべき点が残されていると考える。これからの実践の中からの検証によってこの索引がより使い易いものになればと考える。

← 検討前の索引と

検討後の索引

言葉	ページ
あ	
あおぞら学園	81
秋草文壺(あきくさもんづぼ)	139
秋元喜四郎(あきもと きしろう)	160
麻生環境センター	178
麻生区	70
麻生区民祭	163
麻生区役所	70
麻生スポーツセンター	178
麻生文化センター	173
麻生文化センター岡上分室	178
麻生老人福祉センター	178
浅野総一郎(あさの そういちろう)	154
足踏みだっこ機	124
あみがさ事件	160
有馬	68
有吉忠一	161
有吉堤	161
あんどん	122
※安全なくらし	174

のように使って、自分たちの生活している川崎市を認識していくのが研究の視点であった。

7月の授業では、学区の様子を学習した後の子どもたちが、「身近な地域の良さを踏まえながら、川崎市をどうとらえるか」を中心に据えた学習が展開された。子どもたちは「かわさき」をパラパラとめくり、興味を持った写真にパッと目を留め、それに見入る、という動作を繰り返すことが多かった。特に関心度の高い写真は、海沿いの埋立地(6, 16, 22, 24, 27, 180ページ)やフルーツパーク(90ページ)、4ページから10ページの大きな航空写真であった。柿生という地域性を考えれば、海に興味を抱くのは当然であり、大きな写真の迫力に目を奪われるのも、3年生の子どものごく自然な反応であろう。

2月の授業では、1年間の学習のまとめとして「菅生をもっとすてきな町にしよう」という課題に沿って、「かわさき」の中から、町づくりの参考にしたいところ(菅生に似合うところ)を見つける活動を行った。

子どもたちは、自分のイメージにあった写真を選択し、次々にその写真を選んだ理由をメモしていった。「かわさき」の見方は、後ろからパラパラと見ていく子が多いのは、7月の授業と同じであったが、目次から探す子の割合が多くなった。また、写真の下の文章を読む子どももたくさんいた。

2つの授業から、実際に行ったことのあるところはイメージ化しやすいが、写真からイメージをふくらますのは、生活経験の少ない3年生にとっては難しいということがはっきりした。学校5日制との関係で「市内めぐり」を行わない学校も増えてきている。3年生の子どもたちに川崎市の概要をつかみやすくするためのより有効な手立てを探り、副読本「かわさき」に生かしていきたい。

2. 3年生の子どもにとっての副読本「かわさき」

「見て楽しく学べる副読本」を合言葉に「かわさき」は改訂された。そのために、

○写真はできるだけ大きく、視覚に訴えるものを

○見開き2ページで1項目の内容を記述し、見やすくなどを意図して、編集された。川崎市について学習を進める3年生の子どもたちが「かわさき」の中の大きな写真を食い入るように見つめる姿は、その編集方針の正しさを何よりも証明している。

しかし、本年度の研究が進むに連れて、川崎市を知る「資料」として「かわさき」の内容はどうか問題になってきた。市民読本としての性格上、一つ一つの要素についてはわかるが「川崎って何なの？」という全体像はとらえにくい。そこで、例えば、写真のキャプションに撮影場所の地名を入れるなどの工夫をして、全体的なイメージをとらえやすくすることができるのではないか。また「情報誌」としてのプロットも考えていながら、3年生の子どもたちに見やすい工夫を探っていきたい。

3. 部分改訂について

全面改訂された「かわさき」の配付も3回を数えたが、未だに修正箇所がある。今回は、川崎市議員や新聞記者から、主に写真について「古いのではないか」「現況と違うのではないか」といった指摘があった。変貌を続ける現実「かわさき」の内容が遅れるのは仕方のないことだが、できる限り新しい写真と差し替えていく方針を再確認するとともに、大きな航空写真についても10年に一度の大改訂を待たずに、5年に一度の見直しを行うことになった。

また、語句についても、3年生の子どもが絵画の中の表記ミスを見つけてくれたり、川崎大師の貫主との雑談の中で正しい読み方を知ったりした。「川崎大師平間寺」は、「へいげんじ」だとばかり思っていたが、

「へいけんじ」と濁らないのだそうだ。

写真については、不鮮明で差し替えた写真も不鮮明であったり、室内の写真がどうしても暗くなったりしてしまい、さらに検討が必要な箇所もある。写真の差し替えについては、さらに十分な配慮をしながら取り組んでいきたい。

4. 索引について

かねてからの懸案であった索引の改訂作業に今年度ようやく取り組んだ。「かわさき」の中の膨大な語句を執筆委員が分担して洗い出し、パソコンに打ち込んでプリントアウトして、検討すること4回、その作業を通して、語句の間違いや違うページにある同一語句の不統一などにも気づくこともあった。

また、索引項目を決定するとき、本文中に語句としては載っていないがいくつかのページを見ることによって、そのイメージがつかめる言葉を「イメージ語」として索引に載せることにした。イメージ語には、※をつけて、他の語句と区別し、語句の後ろに載せた。イメージ語についても今後の評価を待ちたい。

索引についても今後さらに修正、検討を重ね、よりよいものにしていきたい。

5. 今後の課題

- ・変化する市域に対応して写真の差し替え、数値の修正は、毎年行っていく必要がある。特に来年度は、5年目の編集作業となるので、航空写真の撮り直しが必要である。
- ・授業を通して、子どもたちが見やすい、使いやすい内容を探っていく必要がある。3年生の子どもたちはもちろん、高学年の子どもたちの学習にも活用できるようにしていくための方法の検討も進めていく。
- ・索引については、特に高学年の子どもたちが使いやすいか、活用してくれるか、アンケートや授業実践を通して研究し、よりよいものにしていく。

・指導助言者

川崎市教育委員会指導主事	・	・	・	・	・	横山	吉雄
川崎市立桜本小学校校長	・	・	・	・	・	星野	仁
川崎市立宿河原小学校校長	・	・	・	・	・	宮田	進
川崎市立四谷小学校校長	・	・	・	・	・	神谷	肇
川崎市総合教育センター							
教科教育研究室長	・	・	・	・	・	吉田	武

・執筆委員

川崎市立日吉小学校教諭	・	・	・	・	・	栗林	昌人
川崎市立大谷戸小学校教諭	・	・	・	・	・	佐藤	芳久
川崎市立久末小学校教諭	・	・	・	・	・	伊東	芳男
川崎市立菅生小学校教諭	・	・	・	・	・	土川	泰
川崎市立菅小学校教諭	・	・	・	・	・	金子	和哉
川崎市立百合丘小学校教諭	・	・	・	・	・	石川	健次
川崎市立虹ヶ丘小学校教諭	・	・	・	・	・	松岡	広記
川崎市立柿生小学校教諭	・	・	・	・	・	本間	俊